

Zuora、創業者兼 CEO の Tien Tzuo が来日 AI 時代の財務変革をテーマにイベントを開催

～AI エージェントによる業務自動化と、財務・経理部門が担う新たな成長機会を議論～

AI エージェント時代の収益化プラットフォームを展開する Zuora(本社:米国カリフォルニア州 フォスターシティ、日本法人 Zuora Japan 株式会社:東京都渋谷区、代表取締役社長 兼 日本地域統括責任者/RD & RVP, Japan 岩上 茂樹、以下、Zuora)は、2026 年 10 月 22 日(木)、東京エディション虎ノ門にて、AI 時代における財務・経理部門の変革と事業成長の可能性をテーマとしたイベント「Agentic Finance Next: Tokyo」を開催しました。

本イベントには、Zuora Inc.の創業者兼 CEO である Tien Tzuo(ティエン・ツォ)が登壇しました。AI による業務の自動化が進むなか、財務・経理部門がどのように業務の効率化と統制を両立し、企業の成長に貢献できるのかについて、基調講演や製品セッション、パネルディスカッションを通じて議論しました。



【開催背景】

Zuora Inc.の創業者兼 CEO である Tien Tzuo は、PC、インターネットに続き、AI が働き方そのものを根本から再構築する「第 3 の歴史的変革」をもたらしていると説明しました。AI の普及により、一人ひとりが複数の自律型エージェント(デジタル労働力)を率い、いわば「無制限の労働力」を活用できる時代が到来しているとの見方を示しました。

一方、サブスクリプションや従量課金、AI クレジットなど収益モデルが多様化するなか、特に大きな影響を受けているのが財務部門です。見積もりから契約、請求、入金回収までを担う Quote-to-

Cash(Q2C)では、手作業や例外処理が増加し、バックオフィス業務の負担と複雑性が高まっています。

こうした変化を踏まえ、Tzuo は、従来の「System of Record(記録のシステム)」から、AI エージェントが業務プロセスや判断、実行を担う「System of Work(作業のシステム)」への進化を紹介しました。正確性や監査可能性、統制(ガバナンス)を確保しながら、財務チームが AI による「無制限の労働力」を活用することで、定型業務から解放され、企業の事業成長を支える戦略的な役割へと進化していく可能性について解説しました。

1. 創業者兼 CEO Tien Tzuo による基調講演

Zuora Inc.の創業者兼 CEO である Tien Tzuo が、AI によって企業の業務やビジネスモデルが大きく変化するなかで、財務部門に求められる新たな役割について講演しました。

Tzuo は、PC の普及によってコンピューティングが個人の手に広がり、インターネットによって企業と顧客、企業同士がデジタルでつながったのに続き、AI は働き方そのものを変える「第 3 の大きな変革」であると説明しました。AI によって、一人ひとりが複数のエージェントを活用し、いわば「無制限の労働力」を持つことが可能になるとし、エンジニアリングやマーケティングなど、すでに生産性向上につながっている事例を紹介しました。

一方、財務部門では、サブスクリプションや従量課金、成果ベース、トークン数に応じた課金など収益モデルが多様化することで、契約変更、請求、入金回収、収益認識などの業務が複雑化しています。こうした定型業務や例外処理を AI エージェントが担うことで、人はより戦略的な判断や事業成長に向けた業務へ時間を振り向けられるようになるとの考えを示しました。

また、従来、人が直接業務システムを操作していた「System of Record(記録のシステム)」に加え、今後は AI エージェントが業務プロセスや判断、作業を担う「System of Work」のレイヤーが重要になると説明しました。

その具体例として、複数の AI エージェントが役割を分担して連携する新たなデジタルワークフォースを紹介。契約書や注文書、価格表などを読み込み、企業固有のビジネスルールや契約関係を理解・モデル化する「Milo」、営業担当者や販売代理店と対話しながら見積もりや注文、契約、承認プロセスを支援する「Linda」、契約内容をもとに請求書の発行や利用量の処理、回収などの Billing Operations を担う「Bo」の 3 つのエージェントを例に、一連の業務を連携して進め、人間による判断が必要なケースのみをエスカレーションする将来像を示しました。



自律型エージェントチームの始動



2. Zuora シニアマネージャー CSE 片倉 俊輔による製品セッション

本セッションでは、AI サービスの普及によって増加するプリペイドや従量課金、利用上限付きプランなど、多様な収益モデルを支える Zuora の製品アップデートについて、片倉が紹介しました。

片倉は、AI クレジットの有効期限や消費の優先順位、残高・利用状況などを管理する機能に加え、「Feature and Entitlement」により、契約プランごとに利用可能な機能や利用上限を設定できる仕組みを紹介しました。上限を超えた際には、リアルタイムイベントを起点に、利用停止や通知などの処理につなげられることを説明しました。



また、「Zuora Mediation」によって AI トークンなどの利用ログを取得・集計し、顧客アカウントやサブスクリプションと紐付けることで、利用量に応じた課金・請求を支援できると説明しました。さらに、「Zuora Revenue」と連携することで、クレジットの消費状況に応じた収益認識まで一貫して対応できる仕組みを紹介しました。

決済領域では、複数の決済サービスを統合する「Zuora Payments」により、各国・地域の決済手段への対応や、決済失敗時の経路切り替えによる回収成功率の向上を支援する仕組みを紹介しました。また、「Zuora Experience」では、利用状況の確認や請求書のダウンロードが可能な顧客向けポータルをノーコードで構築できることを説明しました。

このほか、AI エージェントの操作履歴を記録する監査ログや、機密性の高い処理に承認を設定する機能などにも触れ、AI による自動化を進めながら、財務業務に求められる統制や監査可能性を両立する仕組みについても説明しました。

【開催概要】

イベント名 : Agentic Finance Next: Tokyo
日時 : 2026 年 10 月 22 日(木)17:00~20:00
会場 : 東京エディション虎ノ門 2 階イベント会場(東京都港区虎ノ門 4-1-1)
登壇者 : Zuora CEO Tien Tzuo(ティエン・ツォ)
Zuora VP, Product Marketing Emi Hofmeister(エミ・ホフマイスター)
Zuora シニアマネージャー CSE 片倉 俊輔
ほか、ゲスト企業 4 社より登壇

【登壇者プロフィール】

Zuora Inc. 創業者 兼 CEO

Tien Tzuo(ティエン・ツォ)氏

2007 年に Zuora を創業し、サブスクリプション型のビジネスモデルへの移行を提唱。「サブスクリプション・エコノミー」の提唱者として知られています。Zuora の創業以前は Salesforce に在籍し、最高マーケティング責任者(CMO)や最高戦略責任者(CSO)などを歴任しました。継続収益型ビジネスの実現を支えるマネタイゼーションの仕組みの構築を推進しています。



【Zuora について】

Zuora は、AI エージェント向け従量課金モデルやサブスクリプションモデルとのバンドルなど、多様な収益モデルを組み合わせ、見積から入金(Quote-to-Cash)までのプロセスを担う企業向けに、業界をリードするマネタイゼーションプラットフォームを提供しています。

価格設定やパッケージングから、請求、決済、収益認識に至るまで、Zuora の柔軟かつモジュール型のソフトウェアは、企業が市場の変化に応じて収益化モデルを進化・拡張できるよう支援します。

ソニー、リコー、トヨタ、日産自動車、朝日新聞社、毎日新聞社、富士通、三菱電機、freee、SmartHR、STORES、シーメンス、Zoom をはじめとする世界中の企業が、Zuora のテクノロジーと専門知見を活用し、経理・財務業務および Go-to-Market 戦略の変革を実現しています。

Zuora はシリコンバレーに本社を置き、アメリカ、EMEA、APAC に拠点を展開しています。

詳細は、<https://www.zuora.com/jp/> をご覧ください。